

山梨県がん対策推進協議会
座長および各委員の皆様

2022年7月12日
NPO 法人がんフォーラム山梨
理事長 若尾直子

令和4年度「山梨県がん対策推進協議会」意見提出

全体目標について

指標として掲げた「75歳未満年齢調整死亡率を10年前に比べ概ね2割減少させ続けていく」は、全体として観ると順調な経緯に見える。しかし、この成果は、肝臓がんと胃がんの死亡率減少による成果であって、子宮頸がん及び乳がんの死亡率は減少していない。乳がんにおいては年齢調整死亡率の増加がみられる（若尾別添資料1）。そこで、以下の各項目について意見を提出いたします。

1, がんの予防

- 一次予防として効果がある発がん物質であるタバコ対策の充実が必要。そのためにも4. 基盤の整備とも係わるが、義務教育となった「がん教育」と、職域での「大人のがん教育」充実を求めたい。
- 本年4月に積極的接種推奨が再開されたHPVワクチン接種対策が必要。5月に開催した当法人でのシンポジウム後、AYA世代にワクチン接種に関するアンケートをとったところ、HPVワクチンの存在すら知らない年齢層も存在する。子宮頸がんは、女性にとって一生を左右する疾患といえる。山梨県がん対策推進協議会としては、感染により発症する機序がわかっているがん対策として、HPVワクチン接種の推奨を行っていただきたい（若尾別添資料2）。
- 二次予防としてのがん検診及び精密検査受診に関し、検査を受けることが当たり前になるような環境整備が必要。今までの対策を「さらに」とか「継続して」などという表現で推進しても、受診者には届かない。そこで、県が主導してがん検診の内容に関する統一フォーマットを作成し、各市町村に提供したらどうか。また、各市町村は、死亡率の減少がみられない女性特有のがん検診受診対策を、ナッジ理論を駆使して推進していただきたい。例えばオンライン上で受診先まで誘導できるような仕

組み作りなどを提案する。

2, がん医療の充実

- ゲノム医療情報等が各医療施設と共有できるよう、「山梨県拠点病院連携協議会」の充実を望む。また、これらの組織に、患者・家族・遺族等当事者が参画できる仕組み（PPI：AMED 参照）を期待する。
- がん医療の充実に関しては、「我が国に多いがん」は、現状に合わせ、臓器別ではなく遺伝子バリエーションを視野に入れた 6 部門（若尾別添資料 3）を 2 拠点病院で重点的に充実させてほしい。
- 高度急性期、移行期、慢性期、療養期等、切れ目のないがん治療・療養ができるよう、罹患率の多い癌腫ごとの地域連携マップの作成を期待する。

3, がんとの共生

- 質の高い緩和ケアを診断時から提供するために、相談部門の充実を求める。具体的には「がん相談」および体験者による「がんピアサポート」の利用を促すため、主治医からがん相談室やピアサポートの利用を勧める事を提案する。

4, 基盤の整備

- がん医療に係わる人材育成と最適な配置を期待する（連携マップ作成のためにも、がん治療に関する中・長期入院を受け入れることができる病院・診療所を増やしたい）
- 子どもの時から「がん」を通して生きる力を育むことが可能と思われる「がん教育」を、教育庁と連携して推進してほしい。

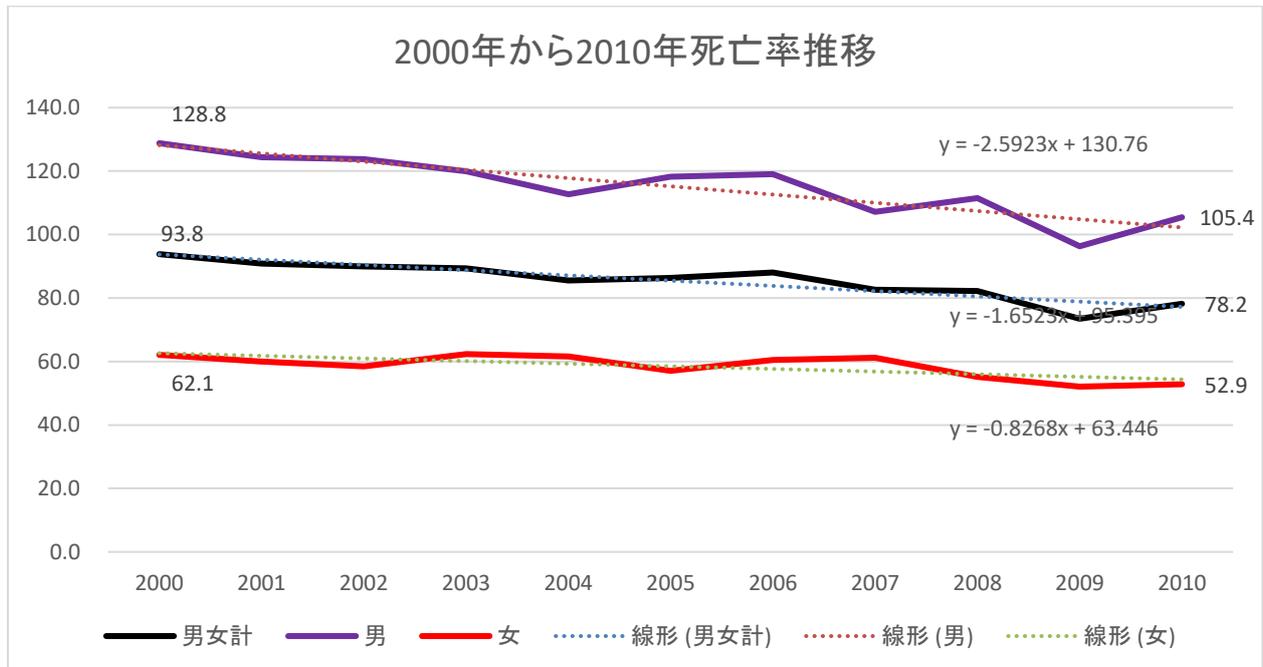
以上第 3 次山梨県がん対策推進計画総括にむけ、よろしく願いいたします。

山梨県 75 歳未満がんの年齢調整死亡率年次推移

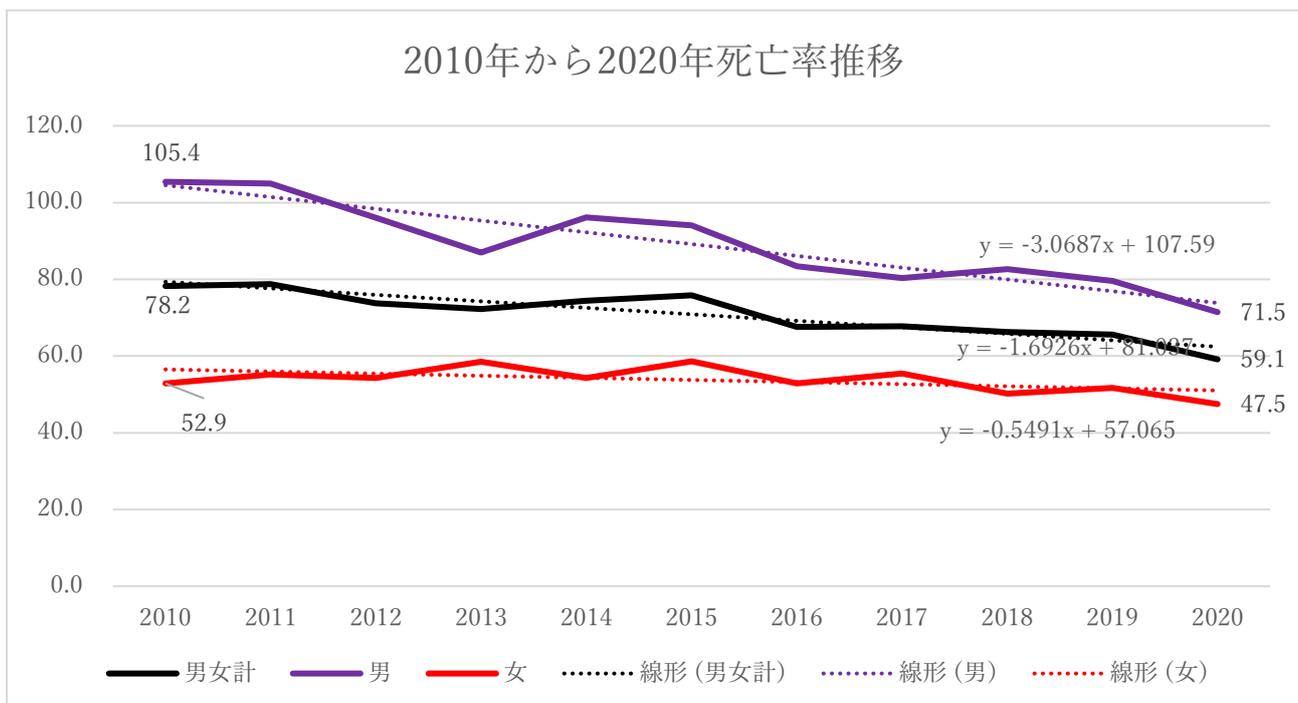
出典：国立がん研究センター「部位別 75 歳未満年齢調整死亡率（1995 年～2020 年）」より筆者作成

全部位男女別死亡率年次推移 10 年スパン

【全部位】

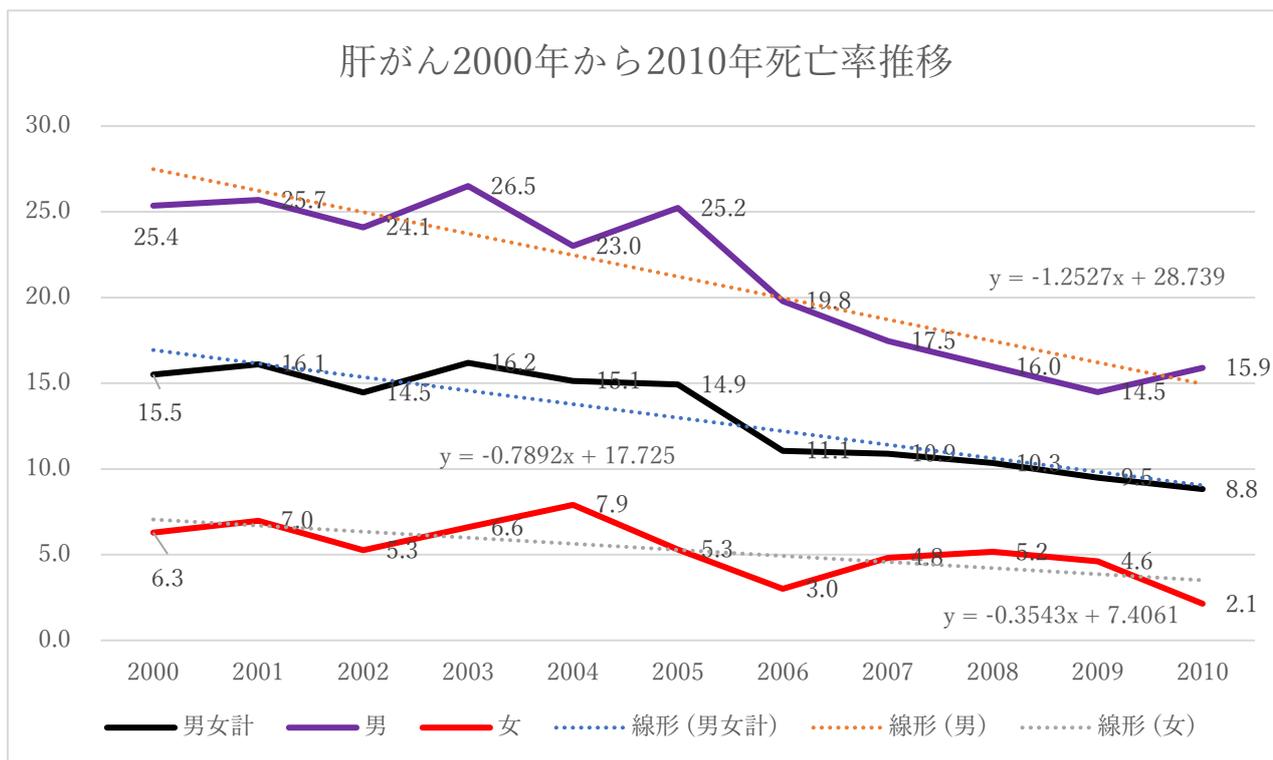


男女計死亡率：17%減（2000 年と 2010 年の数値から計算）

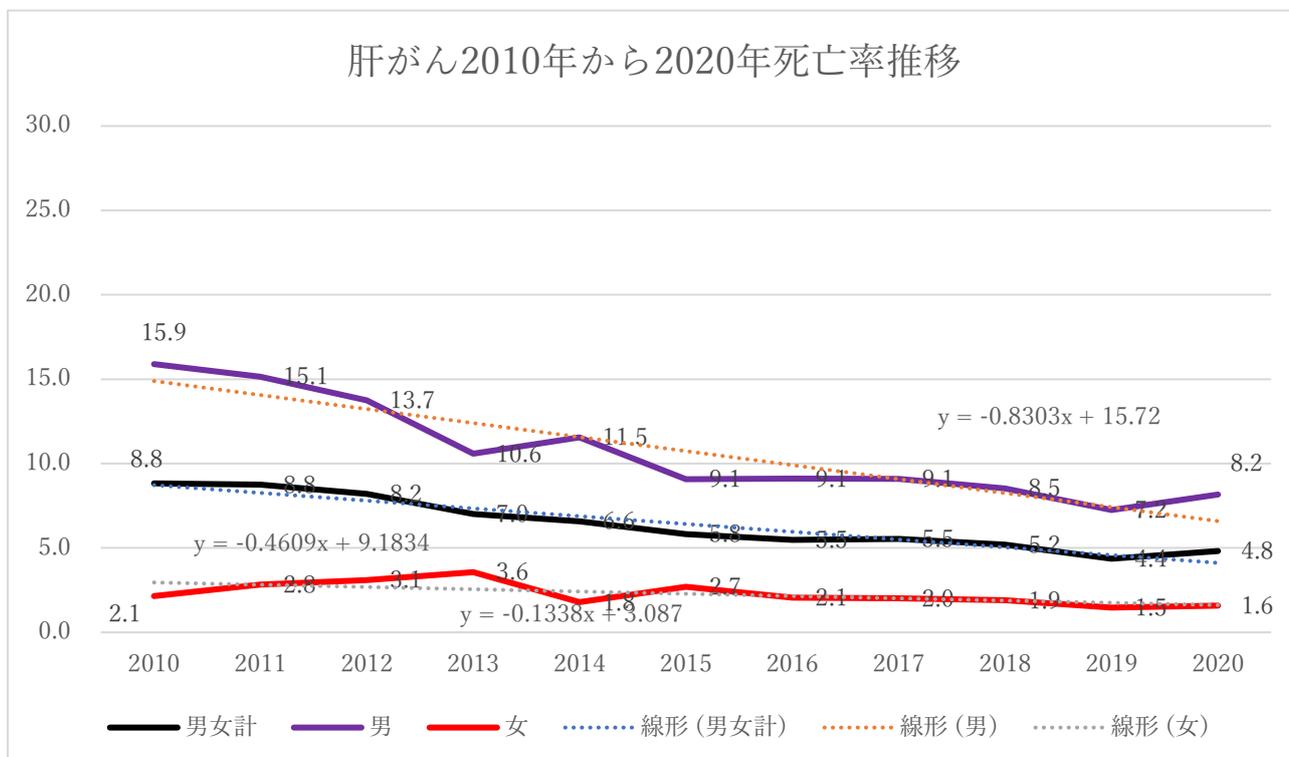


男女計死亡率：24%減（2010 年と 2020 年の数値から計算）

【肝臓等】

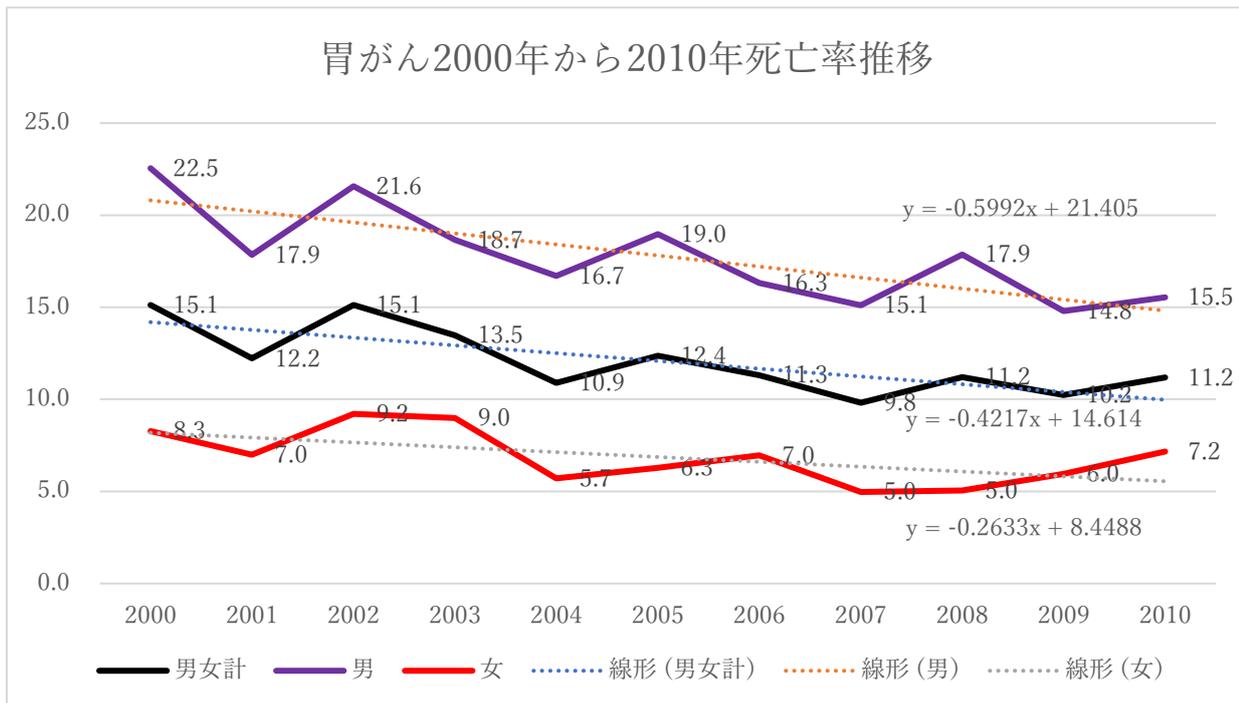


男女計死亡率：43%減少（2000年と2010年の数値から計算）

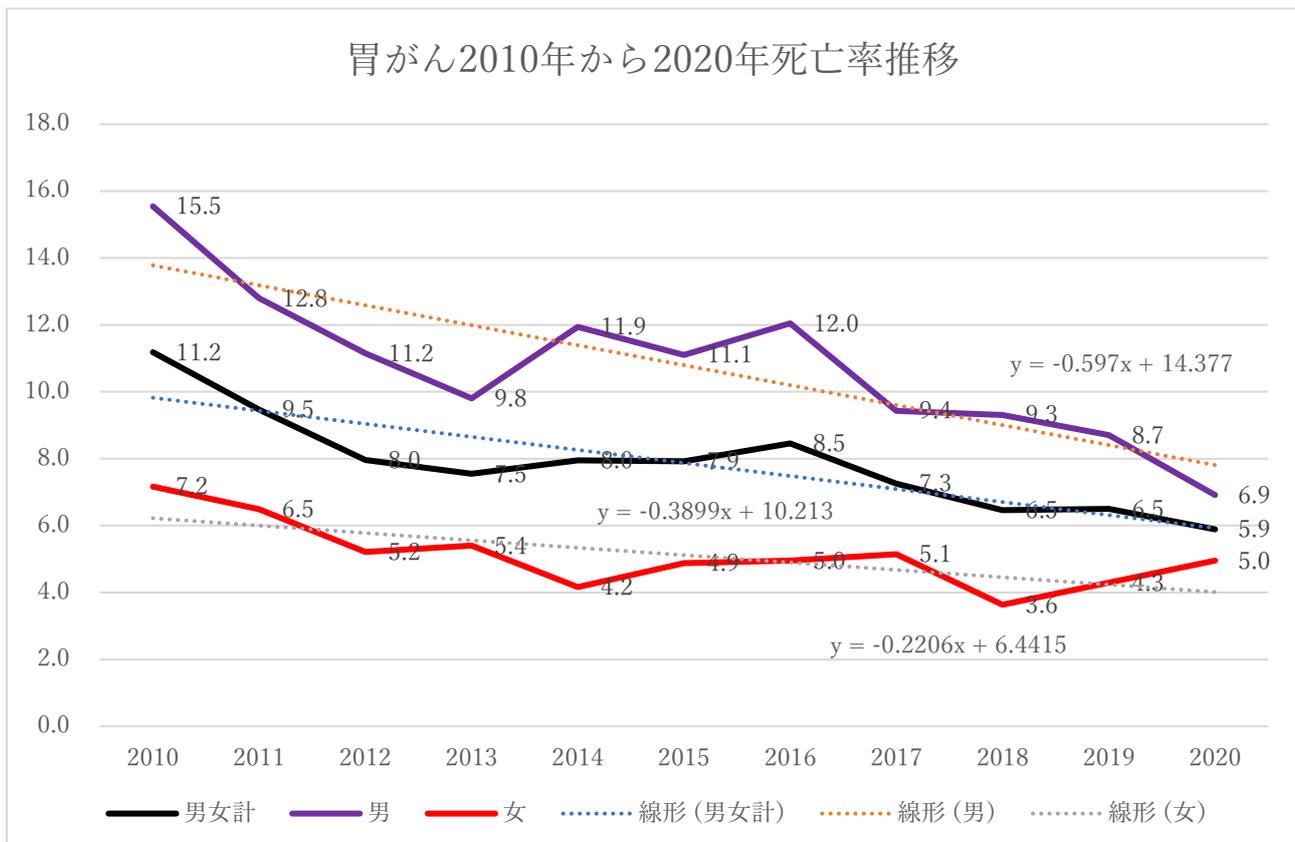


男女計死亡率：45%減少（2010年と2020年の数値から計算）

【胃】

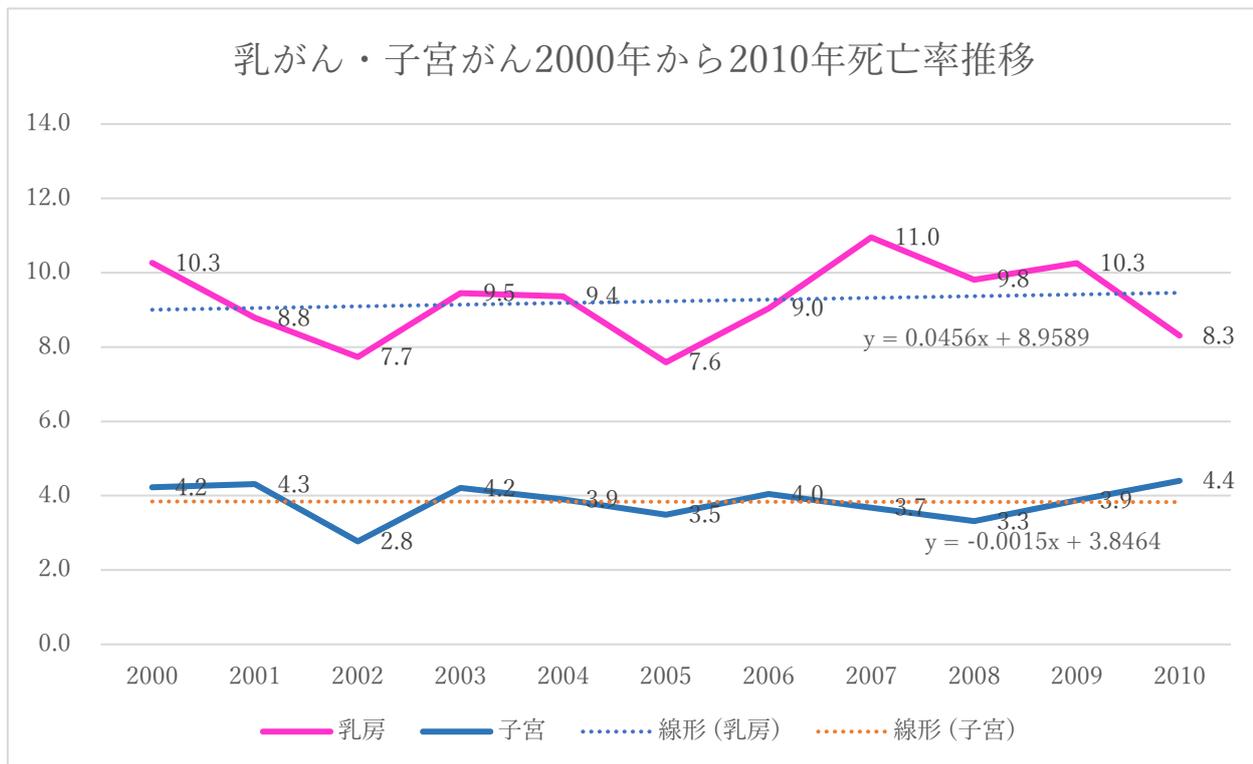


男女計死亡率：26%減少（2000年と2010年の数値から計算）



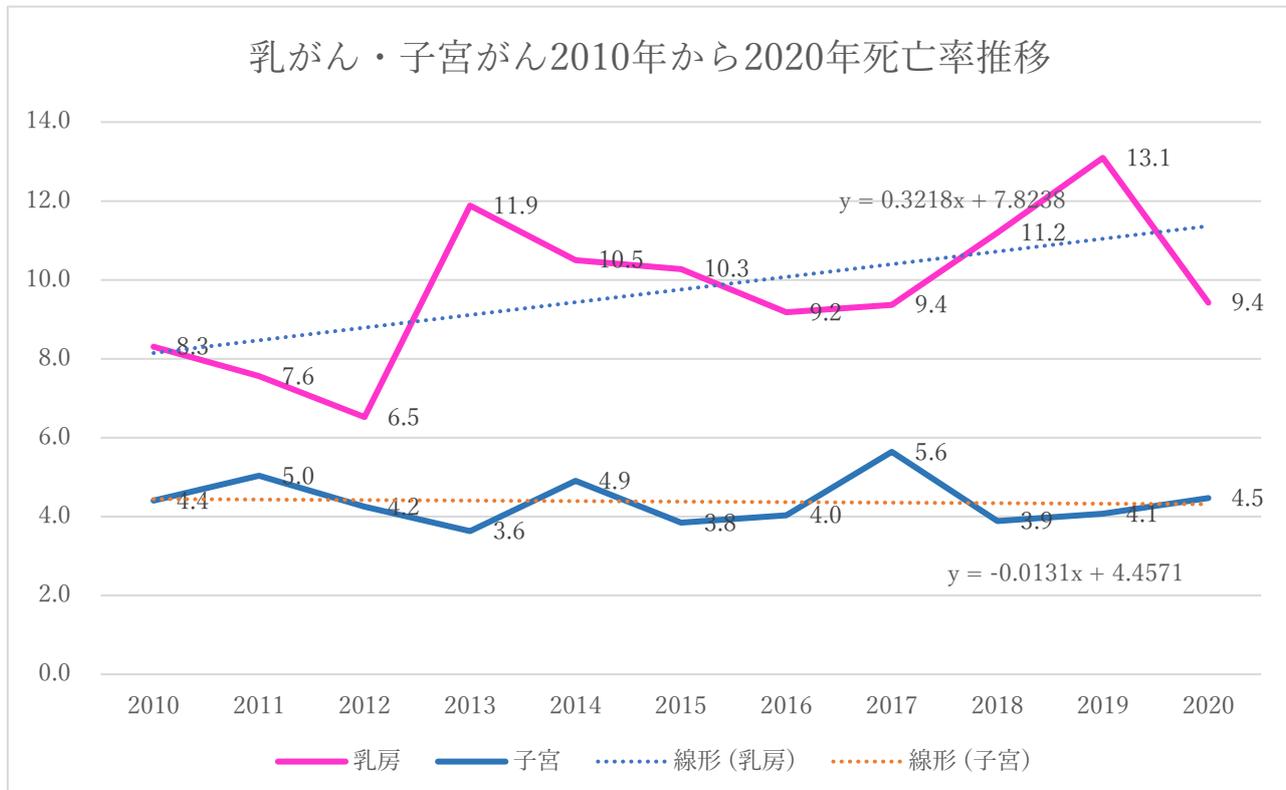
男女計死亡率：47%減少（2010年と2020年の数値から計算）

【乳がん・子宮がん】



乳がん死亡率増減：僅かに増加

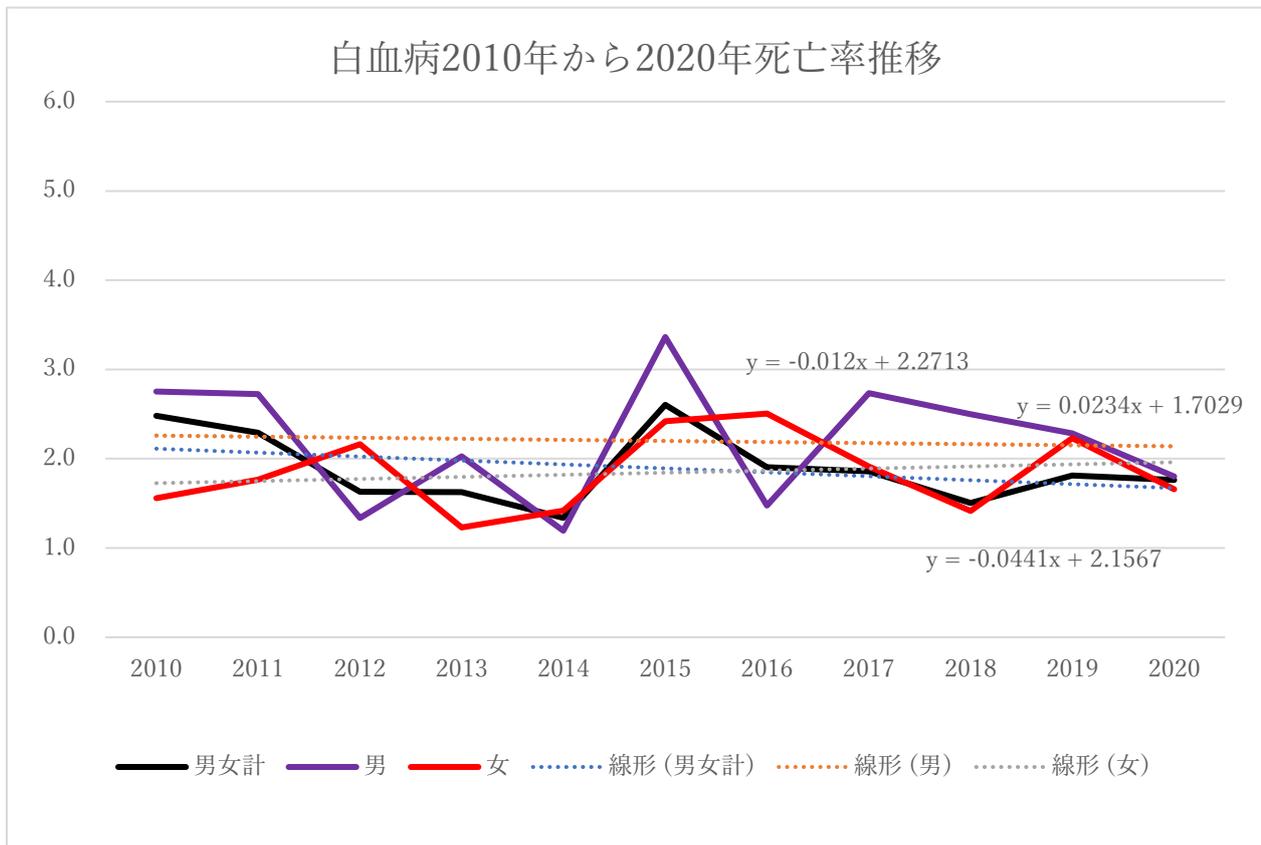
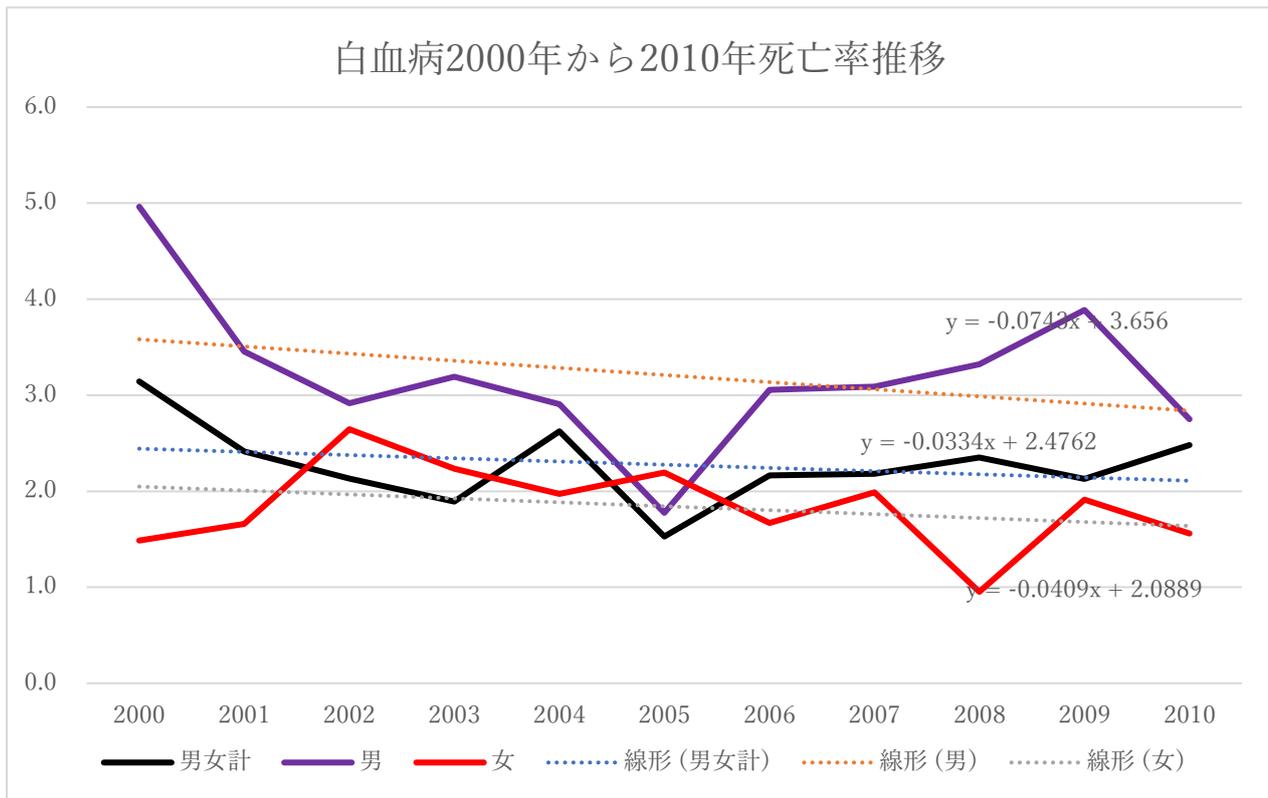
子宮がん：僅かに減少



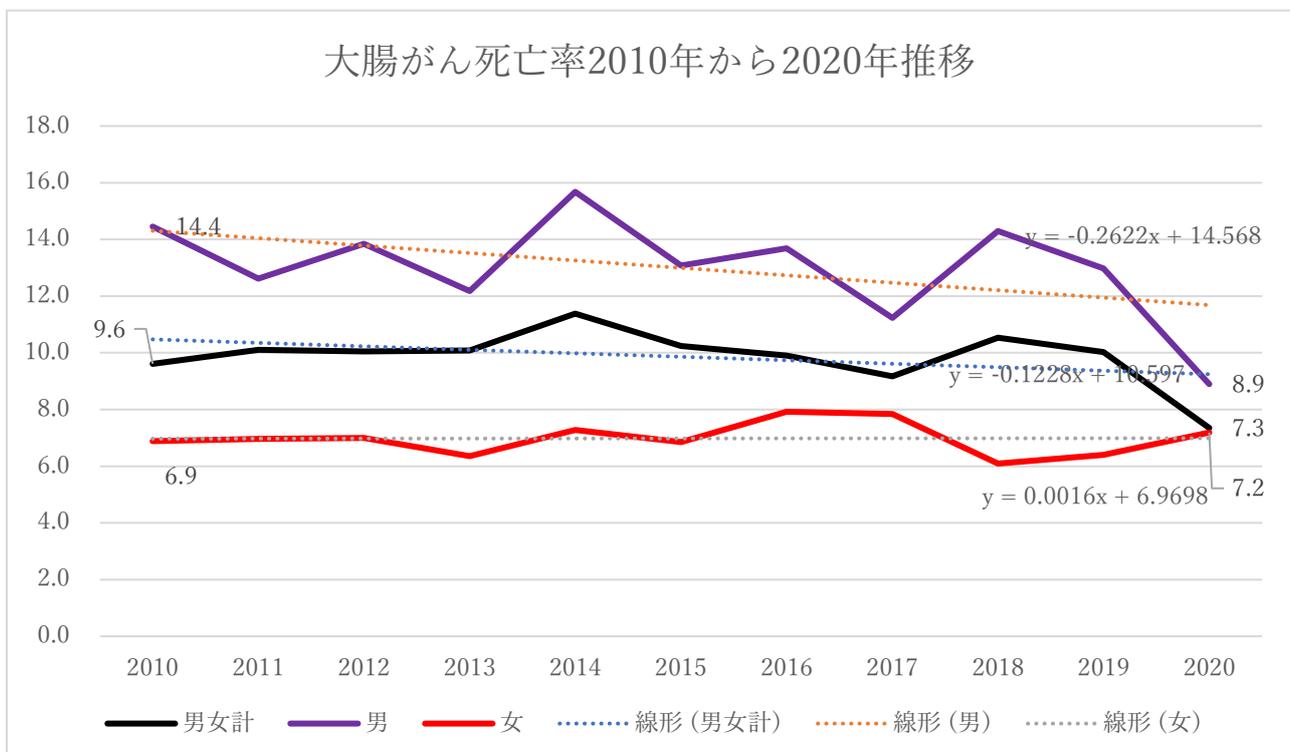
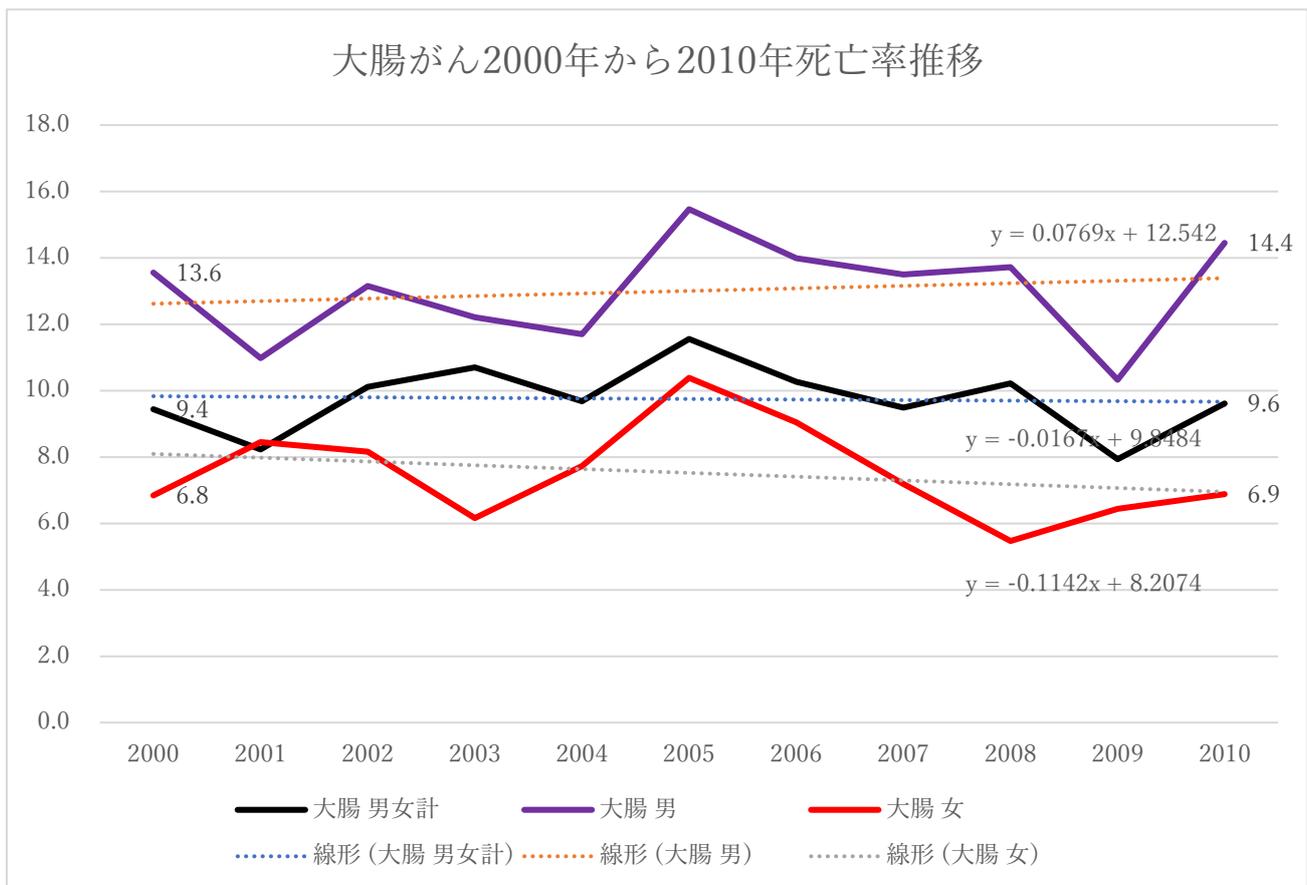
乳がん死亡率増減：1.005 増加（近似曲線から計算）

子宮がん：1.0006 減少（近似曲線から計算）

【希少がんの一例として白血病】



【横ばいの例として大腸がん】



内容：都道府県別がん死亡データ（1995年～2020年）より山梨県抜粋

AYA世代の HPVワクチン接種意識調査

NPO法人がんフォーラム山梨

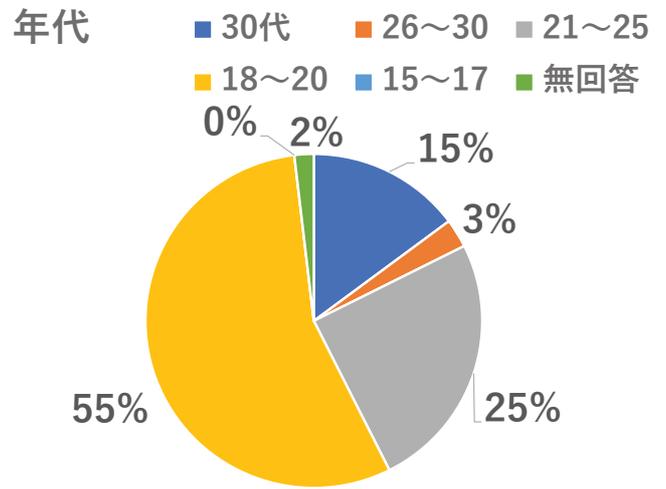
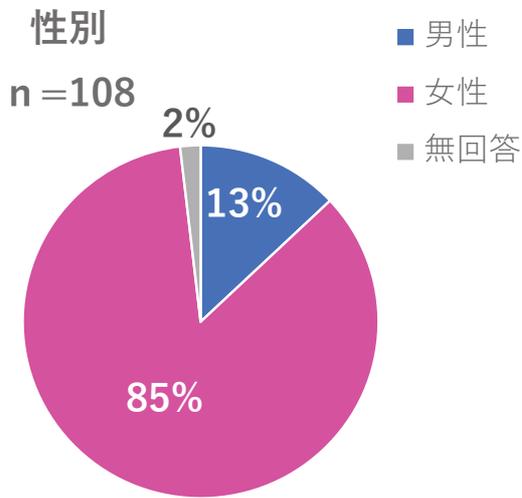
若尾直子

2022年7月

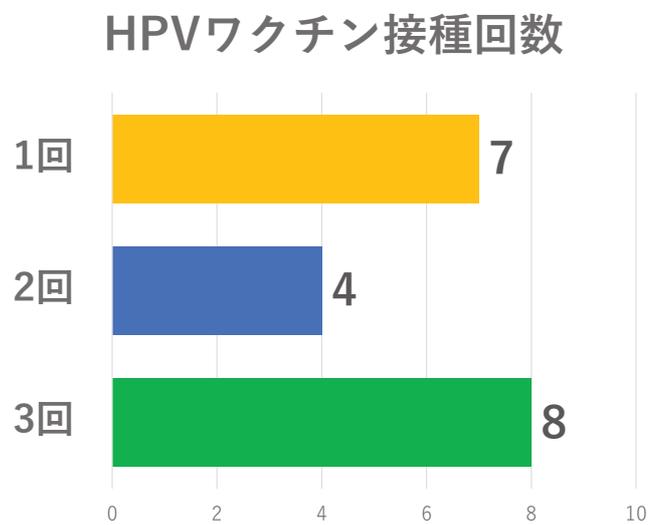
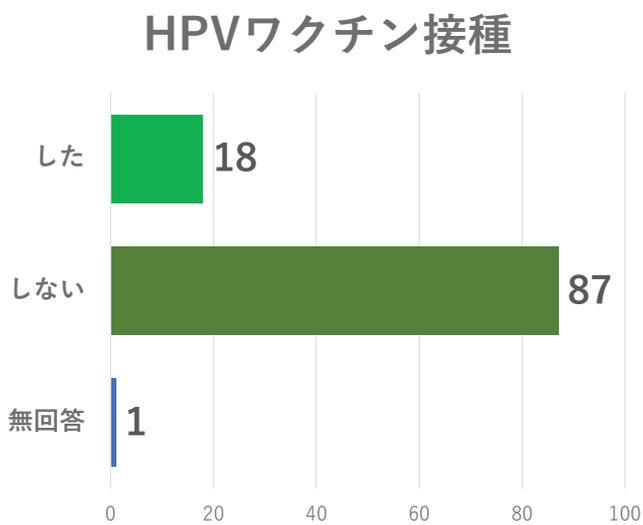
アンケート調査の概要

- 実施期間：2022年4月11日～6月7日
- 調査方法：主に山梨県内の医療系大学生へのwebアンケート
- 回答は無記名、1回のみ
- 回答数：108名
- 自由記述あり
- 単純集計のみ

回答者属性

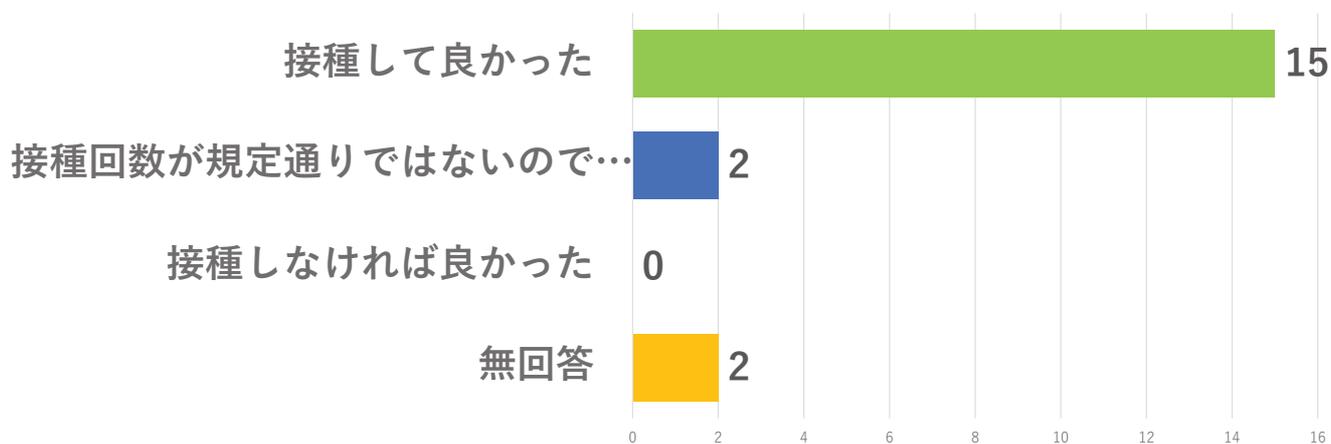


HPVワクチン接種の有無と接種回数



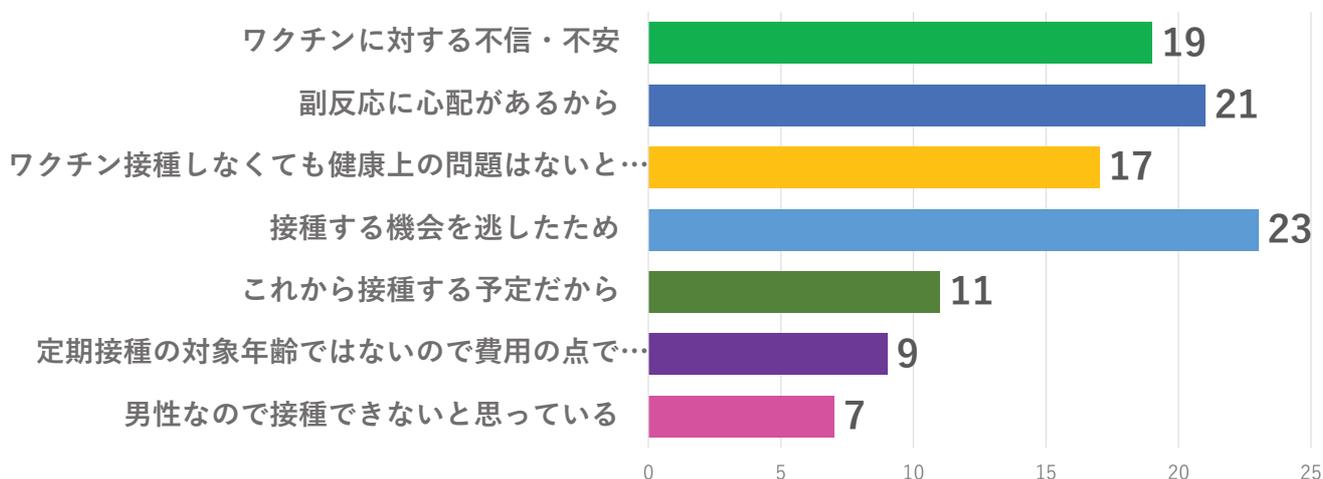
HPVワクチン接種後の感想

HPVワクチン接種後の感想 n = 19



HPVワクチン未接種の理由

HPV未接種の理由 n = 107



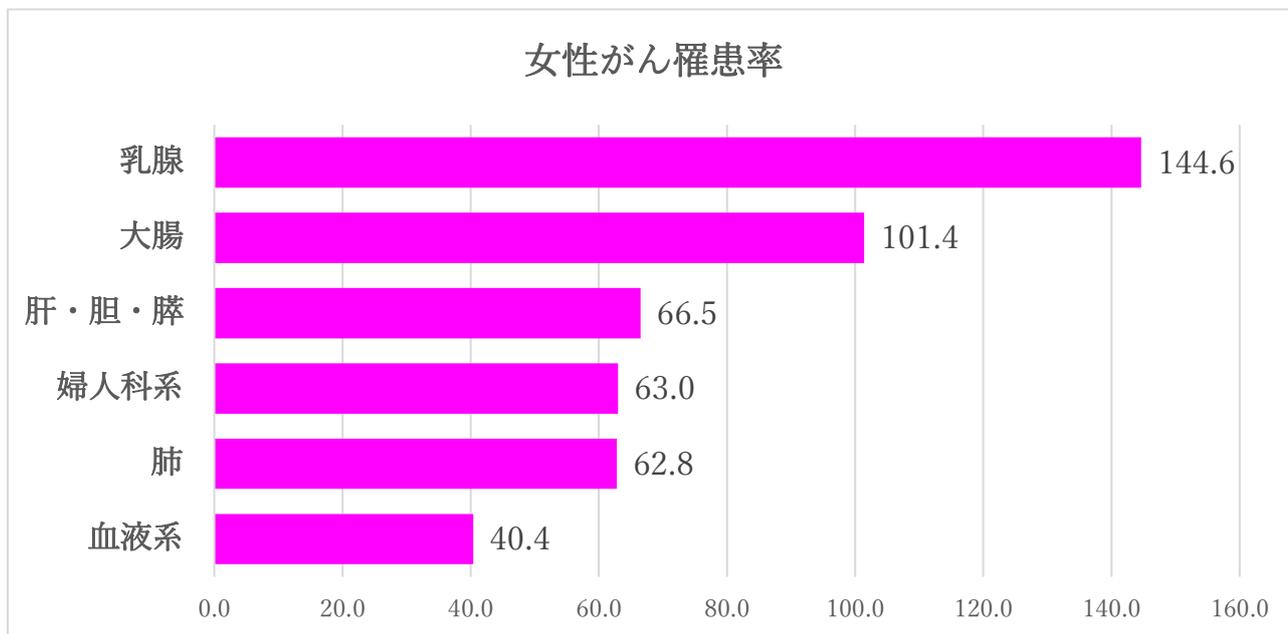
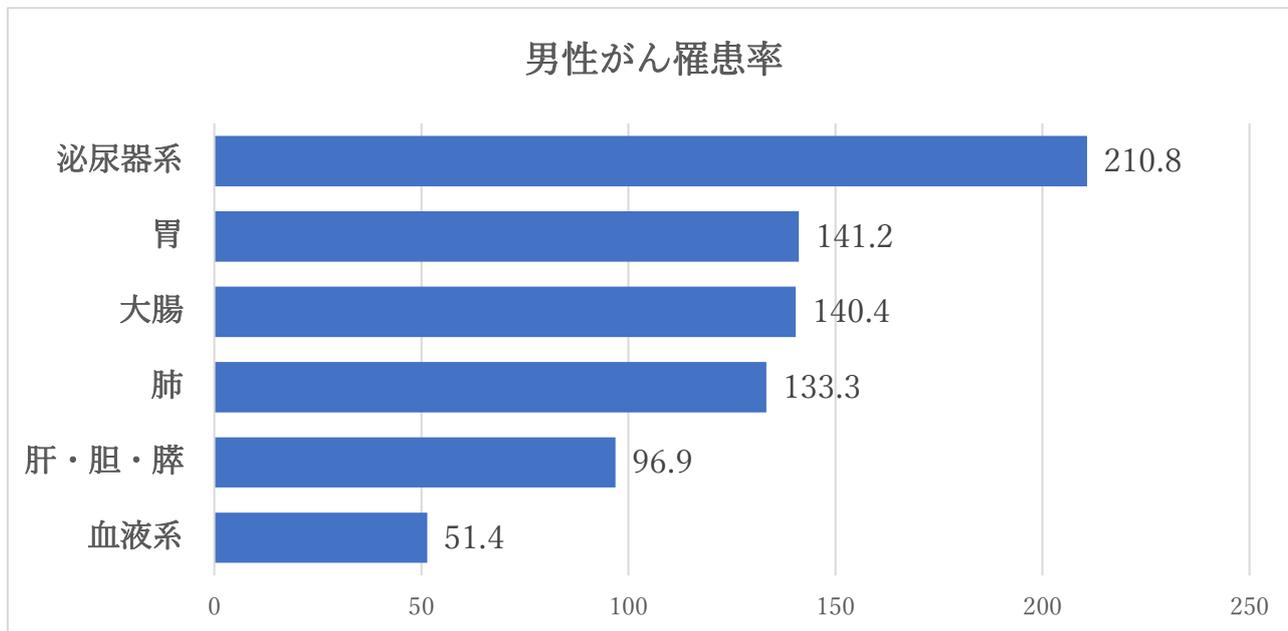
事由記載 n=17

1	年齢で区切られているのが気に食わない。結局、年齢が対象年齢以上であっても性的接触をしたことが無い人が結構いるのにそういう方は守られないんだな、と思う。もちろん、どこかで区切らなければならないのはわかるけど金額も高すぎる。
2	ワクチン前に性教育とヒトパピロマウィルスが原因である、性交渉前でなければ効果がない、ということが周知されていない
3	接種したいがどうすればいいかわからない
4	ワクチンをする重要性の知識不足
5	特に考えたことがなかった
6	接種した
7	現在、費用補助がないから。
8	HPVについてよく知らなかったから
9	接種しようと思ってない
10	年齢的に必要ないので
11	打ったかわかりません。
12	その存在を知りませんでした
13	HPVワクチンの事を知らなかった
14	自由接種だったため。
15	知らなかった
16	ワクチン接種を検討中であるため。
17	これから発症することはないと思うから

「我が国に多いがん」の捉え方を、従来の「5大がん」に縛られず、現実に即した対応を求める

出典：国立がん研究センターがん情報サービス「最新がん統計」

山梨県のがん診療連携拠点病院では、以下に示す「がん」治療をより充実させてほしい。



- ※ 泌尿器系 = 前立腺+膀胱+腎・尿路
- ※ 血液系 = 悪性リンパ腫+多発性骨髄腫+白血病
- ※ 婦人科系 = 子宮頸部+子宮体部+卵巣